

江戸城文化交流会

2025年
3月8日

創立20周年記念講演会・懇親会

春季号



栃木氏



松沢氏



三浦氏



樋口氏



(社) IKIZAMA



清水氏



MONA MUSIC



一龍齋貞花先生

当会創立20周年記念の「江戸城文化交流会」が3月8日(土)日比谷の日本記者クラブホールとレストランアラスカに約150名様のお客様・一般の方・御来賓を迎え盛大に開催されました。

20年間、当会の活動をご支援・ご協力下さいました個人・法人の各会員、企業様や千代田区をはじめ地元諸団体の皆様に謝恩の気持ちをお伝えし、引き続きご声援をお願いいたしました。皆様それぞれに意義深いひと時をお過ごしただけごと、発足したばかりの当会女性委員会を中心に企画・運営いたしました。

記念講演では当会会員でもある一龍齋貞花先生の講演「江戸のまちづくり・城再建」と、当会特別顧問・広島大学名誉教授三浦正幸氏の講演「史上最大の江戸城天守のリユースと活用」寛永度天守は家康・秀忠の天守の再利用だった」をお聴きいただき、存分に楽しみ学ばれたことと思います。続いてレストランアラスカに会場を移し、弦楽ユニットMONAによる

弦楽四重奏コンサートを鑑賞。続く懇親パーティーでは、ジオテックノロジーズ社による「歩くだけで当会に寄付できるアプリ」「江戸城再建 WALKERS」(無償)の解説等、参加者からのインフォメーションコーナーや参加者同士の交流をお楽しみいただきながら、およそ4時間にわたる交流の輪を広げました。

なおご来賓の松沢成文・参議院議員、樋口高頭・千代田区長、栃木一夫・東京商工会議所千代田支部会長、千代田区観光協会副会長からはご祝辞を賜り、清水祥彦(一社)千代田中央文化交流推進機構理事長、神田神社宮司様には乾杯のご発声を賜りました。あらためてお礼を申し上げます。

参加者の皆様を含め1100名余の会員の皆様方の力強いご声援を受け、当会は「江戸城寛永度天守建築の理念」を掲げ、皆様とともに江戸城天守再建の実現に向け、今後一層の飛躍を期する覚悟です。

(専務理事 木川静雄)

認定NPO法人江戸城天守を再建する会

令和7年4月10日



令和七年度 通常総会開催

衆参各一万筆の署名、個人会員300人の入会をめざす

「認定 NPO 法人江戸城天守を再建する会」の令和七年度通常総会を3月8日、日本プレスセンタービル10階日本記者クラブホールにて開催しました。ふりかえれば2004年2月11日に任意団体「江戸城天守を目指す会」を設立してから20周年を迎えております。それを記念して、これまでお世話になった会員の皆様ならびに各位に、お礼の気持ちを込めた講演会・懇親会を総会に続けて行いました。

なお参加者の内訳は出席参加者が87名、委任状69名、書面による議決権行使が33名(合計189名)でした。正会員数の二割を超えて、総会が成立しました。

島田理事長



日本プレスセンタービル

CONTENTS

- 11 二〇周年記念「江戸城文化交流会」開催
- 10 令和七年度通常総会開催・事業計画発表
- 8 新理事五名の紹介／抱負・全役員一覽
- 7 「女子会」から「女性委員会」への道
- 6 冬季全体会の集合写真・ご協力のお願ひ
- 5 黒田涼「べらぼう歴史散策」①
- 4 三浦正幸「名城の天守」③ 備中松山城
- 2 竹下大学「江戸時代の果物」③ カキ
- 1 会員のひろば／事務局からのお知らせ

令和七年度通常総会を開催 新年度事業計画を発表

昨年は収入予算を達成し会員数減少に歯止めをかけることができませんでした。これを今後の活動に繋げて、令和の築城を達成するために会員数増、収入増を図り安定した運営基盤の確立をめざします。

令和七年度事業計画

一、会員の維持拡大

一〇社
新入会員…個人三〇〇名／法人
企業・団体の開拓、継続率向上のための会員間交流の推進

二、請願署名

目標筆数…衆議院、参議院それぞれ一万筆
協力いただける企業・団体の発掘、地域イベント密着

三、広報活動

広報委員会を変更し「広報戦略委員会」とします。部会として広報部会、かわら版編集部会、デジタル広報部会を設置します。
江戸城かわら版発行、江戸城アンバサダー活用、SNS発信は継続します。マスコミへの広報活動を

強化し、(一社)IKIZAMAやジオテクノロジーズ社との連携により広報機会の拡大と新規法人会員獲得をめざします。
ジオテクノロジーズ社制作「江戸城再建WALKERS」は参加者全員の合計歩数に基づき、同社から当会へ寄付金が支払われます。

会員の皆様はアプリをインストールした上で知人へ拡散をお願いします。

四、イベント

オンライン講演全国お城物語、江戸文化サロン、お城EXPO二〇二四を継続するほか、IKIZAMAの協力のもと戦国武将EXPO二〇二五出展、当会設立二〇周年記念交流会を実施します。
東御苑散策は周辺地域への拡大とインバウンド対象ツアーを実施します。また江戸城お堀クルーズを検討します。

五、組織運営

推進リーダー会議、理事会便り(推進リーダー向け)を会員掲示板(会員向け)を継続します。会員掲示板は

季刊発行とします。大手門チラシ配布は新しく入会された方の経験の場として、署名活動は理事の他推進リーダー活動の場として運営し会員の活性化を図ります。

六、地域連携

地元三区役所、議会とのパイプを作り、各種団体企業等との連携活動によって当会の認知と請願署名活動の促進を図り、法人会員の獲得に努めます。特に千代田区観光協会との連携をすすめます。

七、事業構想検討委員会

天守再建の事業採算性と財源調達方式をはじめとし、天守再建にあたって予想されるさまざまな課題について検討会をZOOM(全会員参加自由)により開催します。



江戸城クイズ④ (かわら版第74号9頁) の解答

出題: 当会理事・塚本一夫

- [1] 江戸城本丸御殿はその役割で、大きく3つに分けられる。歴代将軍が日常生活を送り、政務をとっていたのはどこか。⇒(イ) 中興…数人を除き歴代将軍は中興で生活した。主に「御休息之間」が居間・寝室・執務室、「御座之間」が表役人との応接室とされた。
- [2] 明暦3年(1657)の大火を機に創設された消防組織は次のどれか。⇒(イ) 定火消…明暦の大火の翌年の万治元年(1658)に設置され、当初4名の旗本が差配した。時代劇等で有名な町火消は、享保3年(1718)に大岡忠相の下で設置された。
- [3] 徳川御三卿とは、8代吉宗の三男宗武を祖とする田安家、四男宗尹を祖とする一橋家と、9代家重の次男重好を祖とする何家をいうか。⇒(エ) 清水家…御三卿は、御三家とは異なり将軍の親族の位置付けで、家臣は将軍の直臣扱いであった。御三家や大名家の後継者が居ない場合に養子を提供した。因みに、11代家斉は一橋家の出身。
- [4] 江戸幕府は文政元年(1818)に御府内(江戸)の範囲(朱引き)を公式に定めた。次のうち、朱引き内に該当するのは、何処か。⇒(ウ) 亀戸天神…天正18年(1590)以来、江戸の市域は拡大を続け、徐々に不明確に成っていった。そこで、幕府は文政元年(1818)東は中川、西は神田上水、南は目黒川、北は石神井川下流を御府内と定め朱引き図を作成した。
- [5] 夕立を四角に逃げる()、これは江戸城下の特徴を詠み込んだ川柳である。()に入る地名は次の何処か。⇒(ウ) 丸の内…老中・若年寄などの広い居敷が並び、夕立に成ると塀づたいに走り廻る様子を詠んだ川柳。江戸時代に町名は無く、昭和初期に「丸の内」後期に「丸の内」の表記になった。

江戸文化サロン 「江戸の文化芸能・落語」シリーズ 第2回

『料亭のお座敷で古今亭菊之丞師匠の落語を聴く会』

- 日時: 6月14日(土) 14時開演 (開場 13時30分)
- 会場: 浅草「茶寮一松」台東区雷門1-15-1 (東京メトロ銀座線田原町駅徒歩3分)
- 出演: 古今亭菊之丞師匠
- 会費: 第1部: 落語鑑賞のみ 3,500円 (会員は3,000円)
第2部: 第1部および終演後の会席料理代込み 14,000円 (会員は13,000円)
- 定員: 先着40名様 (会費のお支払いをもちまして受付とさせていただきます)
- お申込み: メールにて①氏名、②会員 or 非会員を明記、③携帯番号 ※第1部 or 第2部を明記のうえ 6/6 (金) までに当サロン担当木川 (kigawa.spacek@gmail.com) 宛お申込み下さい。
- 会費のお支払い: お申込みの方には折り返しお振り込み先のご案内を差し上げます。
- キャンセルコード: 6/7～11までのキャンセルは70%、12～当日は全額を申し受けます。
- お問い合わせ: 江戸城天守を再建する会 木川静雄(メールもしくは 070-6988-6975)

令和六年度事業報告

一、主な事業の成果

近年はコロナ禍や会員の高齢化に伴って会員数が減少を続けてまいりました。こうした状況を打破するべく会一丸となって会員増へ向け活動してまいりました。その結果減少には歯止めをかけることができました。運動体として令和の築城に向け影響力を発揮するには請願署名とともに会員数増加が不可欠です。

二、事業の実施に関する事項

(1) 会員の拡大

新入会員三二二名と前年度から倍増、休退会者は一六五名と前年から減少した結果、期末会員数は一一六〇名となり、会員数減少傾向に歯止めをかけました。

(2) 請願署名

世田谷ポロ市などを新たに開拓した結果、実績では衆議院四八〇二筆、参議院四八五八筆と前年を上回りました。それぞれ累計で一万筆に到達しました。

(3) 広報活動

○江戸城軸組模型制作…中央工学校に委託して、江戸城天守軸組模型を制作しました。九月～一〇月にはクラウドファンディングを実施。お城EXPO二〇二四で展示するなど広報活動を行いました。軸組模型に関する寄付金として、会員から直接寄付とクラウドファンディングからの支援金を合わせて一七万円頂戴しました。

○江戸城アンバサダー…昨年一月選抜の初代アンバサダー(女性三名)には、神社での節分祭、東御苑散策ツアーに参加してもらい同世代の若年層へアピールしました。

昨年一月月に選抜した二代目アンバサダーには男性一名を含む三名が就任して、お城EXPOから活動を開始しました。

○オンライン講演…三期目に入った全国お城物語を二回、七月に広島城、九月に高松城を開催しました。

○SNS…四月から「江戸城公式LINE」を開設したほか、YouTube、フェイスブック、Xを通して当会活動を広報しましたが、閲覧数の拡大には課題が残りました。

○江戸城再建WALKERS…ジオテクノロジーズ社の新アプリ「江戸城再建WALKERS」(二月リリース)の制作・PRに協力しました。

○大手門前でのチラシ配布…東御苑入園者にアピールするため春秋7回チラシ配布を実施しました。

(4) イベント

○歴史・城郭展示会…二月SAMURAIフェス二〇二四、一〇月越前若狭お城フェス二〇二四、一二月お城EXPO二〇二四に参加しました。お城EXPOでは初めて二小間出展し中央工学校制作軸組模型と同縮尺の会員制作江戸城模型(外観復元)を並べて展示しました。

○皇居東御苑散策…一回開催し

会員獲得に貢献しました。

○江戸文化サロン…食文化・芸術・芸能など江戸文化を幅広く取り上げながら四回開催。

(5) 組織運営

○推進リーダー勉強会…会の活動を会員へなるべく早く伝えるため、一月と七月に会員全体を対象とするリアル勉強会を実施し、隔月にオンライン勉強会をほさしました。

○入会一年以内の会員に当会活動を知っていただくため、大手門でのチラシ配布に協力を求めたところ、多数の協力者を得ました。

(6) 地域連携

○地元・千代田区との連携…千代田区観光協会から協賛金をいただき二年目となる「親子で学ぶ江戸城」開催のほか、福井で開催された「越前若狭お城フェス」に参加しました。

○他団体との連携…一月福岡城・鴻臚館市民の会とエールの交換を行いました。7月広島城を築城した武将銅像建立のクラウドファンディングを支援するためオンライン講演を実施しました。

(7) 事業構想検討委員会

事業収支採算の基礎となる利用客見込に関連して、姫路城、松本城、大阪城の実態をヒアリング実施。天守再建に必要とされる建築基準法規制との調整については、大洲城建築当事者からお話を聞きました。



江戸城天守再建シンポジウム「決起交流会」4月19日開催 主催：一般社団法人 IKIZAMA

1：趣旨目的

「やがて来る国難に対して、私たちは無力でしょうか？いま、日本にはゲームチェンジが必要です」…日本における構造的な問題を打破すべく、国民が参加できる国家プロジェクトとして「江戸城天守の再建築城」が注目を浴びています。本事業は、『江戸城天守再建築城のシンポジウム』開催をめざし、決起交流を通じてそのための組織を発起するために実施します。

2：開催概要

とき：2025年4月19日(土) 午前11時30分～午後2時(11時受付開始)会場：綱町三井倶楽部(港区三田綱町)
会費：正会員 20,000円(一般社団法人 IKIZAMA の正会員、又は認定NPO 法人江戸城天守を再建する会正会員) 一般参加 25,000円

その他：交流会は立食buffetとなります/ドレスコードは綱町三井倶楽部規定に従います

3：決起交流会のねらい

江戸城天守再建築城において、もっとも重要な民意創出

のため、「認知向上」「価値向上」「活動量向上」の3つを柱としたシンポジウムの開催を目的とした、実行委員会組織を立ち上げます。決起交流会ではビジョンの共有と発起式典、トークを行います。

②交流会では、各分野で活躍されている「発信力」「人脈」「行動力」ある方々が一同に会し、プロジェクトの推進力となる組織として、「江戸城DAO」を構築します。

4：当会からのお申込み：Eメールにて木川専務理事(kigawa.spacek@gmail.com)宛お申込みください。折り返し会費お振り込み先のご案内を差し上げます。



お問い合わせ：
木川静雄
(メールもしくは電話
070-6988-6975)

令和七年理事・監事ご紹介

新理事紹介(50音順)

赤羽 高

私は国宝松本城を見ながら育ちました。退職後「二身にして一生を経る」との志で少しでも会に貢献できるように努力します



泉 毅

有言実行をモットーに即行動。



神岡 弘

生まれ故郷に恩返しすべく、活動させて頂いております。関係者の皆さん、応援して頂いている皆さんと共に完成した江戸城を見たいと思っております。



篠原 乃生子

建築関係の仕事をしていることもあり、お城が大好きで色々なお城を見て回っています。江戸城の図面を見ているだけでワクワクします。



羽田 善彦

小さい頃からお城が好きで、皇居東御苑の天守台を見た時からずっとこの上天守閣を再建したいと思っていました。今まで培った金融の知識を基に、スピード感をもって江戸城天守再建に貢献したいと思います。



令和7年度選出理事・幹事

(任期2年)

理事 (19名)

- 島田 昌幸** 入会 平成 26 年
理事長、テレビ東京顧問、元日本経済新聞社
- 寺村 信行** 入会 平成 18 年
副理事長、元国家公務員共済組合連合会理事長
- 木川 静雄** 入会 平成 20 年
専務理事、spacek 代表、元東京海上火災保険株
- 青木 行雄** 入会 平成 18 年
理事、日青木材協会長、東京大分物産(株)代表取締役
- 吉田 誠男(のぶお)** 入会 平成 23 年
理事、日本橋みゆき通り街づくり委員会会長、(株)伊場仙代表取締役社長
- 近藤 一郎** 入会 平成 26 年
理事、(株)ジェイアプリケーション代表取締役、元株日経 BP
- 高山 肇** 入会 平成 19 年
理事、合資会社高山本店代表、千代田区商店街連合会会長、千代田区観光協会副会長、元千代田区議会議員
- 江澤 廣** 入会 平成 25 年
理事、ニュー設備有取締役、氣天流獅子・ひよっこ会代表
- 黒木 英俊** 入会 平成 27 年
理事、NPO 法人団塊のノーブレス・オブリージュ副理事長
- 東 三郎** 入会 平成 29 年
理事、元(株)ビジネスコンサルタント常務取締役
- 渡辺 俊之** 入会 平成 30 年
理事、公認会計士、税理士、渡辺公認会計士事務所代表、税理士法人優和会長
- 塚本 一夫** 入会 平成 27 年
理事、両高ゼミナール塾長、元凸版印刷株、江戸文化歴史検定 1 級、日本城郭検定 1 級
- 岩淵 美智子** 入会 令和 4 年
理事、言論 NPO 副理事、元東洋大学法学部助教授、元宮城県環境生活部次長
- 高比良 美穂** 入会 令和 4 年
理事、(一社)社会応援ネットワーク代表理事、(株)ニューメディア研究所シンキング代表取締役、元朝日新聞社
- 泉 毅** 入会 平成 17 年
理事、元江戸幕府鉄砲組百人隊事務局長
- 赤羽 高** 入会 令和 2 年
理事、東海東京インテリジェンス・ラボ シニアアナリスト、
- 神岡 弘** 入会 平成 27 年
理事、元信濃電気(株) 製造メーカーの営業約 40 年
- 羽田(はだ)善彦** 入会 令和 6 年
理事、Japan Softpower Management 合同会社代表、What Divides Us LLC 財務担当役員、元野村証券
- 篠原 乃生子(のぶこ)** 入会 令和元年
理事、アトリエ・ノブビル一級建築士事務所代表

監事 (3名)

- 中村 元彦** 入会 平成 29 年
監事、公認会計士、税理士、中村公認会計士事務所所長、千葉商科大学教授
- 土屋 文男** 入会 平成 18 年
監事、当会顧問弁護士、土屋総合法律事務所代表
- 渡邊 敦子** 入会 平成 23 年
監事、弁護士、渡邊総合法律事務所代表

退任理事 (4名)

- 田中 鐵二** (副理事長)、**森本 淳之** (理事)、**包原(かねはら) 誠** (理事)、**中澤 克之** (理事) (田中、森本、包原の 3 氏は相談役に就任)

令和7年度通常総会において、四名の理事が退任し、五名の理事が選出(一名は復帰)されました。田中鐵二(副理事長、森本淳之、包原誠、中澤克之の四名の理事が抜ける穴を、五名の新理事を含めた全員で埋めて、新年度の目標達成にトライします。田中、森本、包原三氏には、今後も相談役としてご協力をお願いします。なお総会直後の理事会で、理事長に島田昌幸、副理事長に寺村正行、専務理事に木川静雄が選出されました。

女性の力で広がる交流の輪 女性委員会の発足と新たな展開

時代の変化とともに女性の活躍が求められるようになる中、当会にも設立20周年という節目に「女性委員会」が誕生し、総会後の江戸城交流会でも大活躍しました。(写真①)



きっかけは江戸城交流会

2024年4月30日、新会員紹介キャンペーンの一環として、広報戦略委員会主催の「江戸城交流会」を開催。女性の参加を促進するため広く声をかけたところ、各分野の現役で活躍中の女性たちが集まりました。活気あふれる交流の中、「これまで会員同士が集まる機会が少なかった。女子会があればもっと広がるのでは？」という声が上がリ、新たな動きが生まれました。

学びと交流の「女子会」が原点

12月9日、江戸城交流会で意気投合したメンバーが再び集まり、正式に「女子会」を開催。この日は塚本理事を招き、江戸城に関する基礎知識を学ぶ勉強会も実施しました。「ただ集まるだけでなく、江戸城について学びながら楽しもう」との方針が決まり、学びと交流の両方を大切にすることをスタイルが確立されました。(写真②)

また、情報共有をスムーズにするため、女子会専用のグループチャットを開設し、メンバー間の連携を強化しました。

お城エキスポでピンチをチャンスに

12月末に開催されたお城EXPOでは、直前にステージイベント担当者が相次いでコロナやインフルエンザに感染し、スタッフ不足という緊急事態に。そこで急遽、女子会メンバーに助けを求め



活発になっていきました。(写真④)

「女性委員会」を設立

たところ、「私が行きます!」「手伝います!」と、即座に手を挙げるメンバーが続出しました。

こうして、女子会のメンバーがアンバサダーのサポートやチラシ配布、来場者対応などを担当し、イベント運営を支えました。その結果、イベントステージは大成功。メンバーの結束力の強さを実感する機会となりました。(写真③)

イベント終了後、会場内の喫茶店でささやかな打ち上げを実施。「これからも、何かあれば私たちが盛り上げていこう!」と話が弾み、女子会の活動が本格的に

1月の理事会では、女子会の活動を正式に位置づけるため、「女性委員会」を設立することが提案され、承認されました。こうして女子会は「女性委員会」として組織化され、メンバーには「幹事」という肩書きが与えられ、活動の基盤が整いました。

また、東理事の協力により、女性委員会専用の名刺も制作。お城のマークが入ったカラー名刺を手にしたメンバーの士気はさらに高まり、次のイベントに向けた準備が本格化しました。

そして、3月に開催される「20周年記念江戸城交流会」に向け、一般客への呼びかけを積極的に実施。そのかいもあって、定員1000名を大幅に超える約1500名の申し込みが寄せられました。

迎えた3月8日。この日は偶然にも「国際女性デー」にあたり、女性の活躍を象徴する特別な日となりました。朝早くから女性委員会のメンバーが集まり、受付の準備や配付物の整理、出演者・来賓のご案内などを担当。(写真⑤)会場は多くの女性参加者でにぎわい、活気に満ちた雰囲気。

また、会の進行中はホスト役として参加者同士をつなぎ、積極的



に話しかけながら場を盛り上げました。「初めての参加で緊張していたけど、女性メンバーが話しかけてくれたおかげで楽しく過ごせた!」という声も聞かれ、女性委員会のホスピタリティが光る場面となりました。

さらに、総会の運営を担当した本部事務局との連携もスムーズで、最後の片付けまで和やかに作業が進み、全員が協力しながら気持ちよく締めくくることができました。(写真⑥)

ワクワク活動の発信源に

「まずは私たち自身がワクワクしながら楽しむこと!」「楽しさが伝われば、自然と仲間も増えていくはず!」

女性委員会は、江戸城再建へ向けてこんな思いを大切に、当会の魅力を発信していきます。

(理事 高比良美穂)

2025年1月11日(土) 冬季全体会に34名参加



組織運営委員会は、各委員会から全会員に向けた進捗報告の場として冬と夏の年2回、全体会を開催しております。1月11日に、伊場仙セミナールーム(日本橋)にて冬季全体会を実施しました。

[内容] 14:00 開催挨拶：島田理事長／各委員会より(寺

村副理事長、田中副理事長、木川専務理事、渡辺理事(ほかより) / 16:30 懇親会、太田会長乾杯御発声)

[次回予定] 夏季全体会を7月12日(土) 同会場で開催する予定です。

4月～6月の請願署名実施等イベント

当会では今期請願署名1万筆(衆参それぞれ)を目標として設定しました。昨年12月および今年1月に新たに加えた世田谷ポロ市、今年は天候に恵まれた2月実施の「戦国武将 EXPO」等のように、高い目標をクリアするためには、署名に好意的な方が多く集まるイベントを開拓し続けるしかありません。会員のご協力をお願いします。

- 皇居東御苑大手門前でのチラシ配布(4月12日と26日、5月10日と24日) ※いずれも土曜日の10:00～11:30)
*この1年間に入会された方にとっては天守再建活動のデビュー・イベントです。
- 岩本町・東神田ファミリーバザール(5月31日(土)～6月1日(日)、6月7～8日)
- 神田神社 神田祭(5月日取り交渉中)

中央工学校卒業式で江戸城模型がお見送り

江戸城天守軸組模型の制作を担ってくれた中央工学校建築倶楽部の学生2名が3月19日に卒業式を迎えました。丁度学内に設置してあった江戸城模型を囲んで記念撮影。マスクをしている2名が卒業生(向かって右から、森田裕貴さん、小田原星来さん)です。おめでとうございます。



飲酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。 神戸・灘 菊正宗酒造株式会社



手仕事でなければ、決まらない味がある。



菊正宗
樽酒

黒田涼の江戸の東京歴史講座

NHK・大河ドラマ「べらぼう」歴史散策

「第一回」葛重のふるさと「吉原」周辺を歩く

作家・江戸歩き案内人
黒田涼
当会特別顧問

二〇二五年のNHK・大河ドラマ「べらぼう」が評判です。現代につながる出版文化、江戸文化を切り拓いた葛屋重三郎の生涯を描いていますが、その舞台は我らが江戸。今に残るゆかりの地をご紹介します。初回は葛重のふるさと、吉原とその周辺です。

投込寺と平賀源内の墓は至近

東京メトロ日比谷線三ノ輪駅の三番出口を出て裏側に回ると、「投込寺」浄閑寺があります。実際に投げ込むように葬られたのは安政の大地震の時だけで、実際にはそれなりに供養されていたようです。墓地には立派な「新吉原総霊塔」や「永井荷風文学碑」があります。遊女の全裸死体シーンが話題になりましたが、遊女だけでなく死者の服を剥いで売り捌くのは江戸時代によくあることでした。駅近くの三ノ輪二丁目バス停で亀戸駅行きに乗り橋場二丁目まで降りると、明治通りを渡った裏側に平賀源内の墓があります。「日本ダ・ピンチ」などとも言われま



復元された葛屋重三郎の墓



「大河ドラマ館」

すが、最後はケンカで人を殺して獄死します。菩提寺が移転して墓だけ残りました。そこから少し南下した下山寺には、近くにあった鏡ヶ池に身を投じた遊女の墓「采女塚」があり、記念碑は葛重の盟友・大田南畝が建てました。寺の裏にある石浜公園には、なんと源内が復元したエレキテル形のトイレがあります。屋根の上には、ご丁寧に電極形の突起があり、夜は光るそうです。



吉原の地にできた「江戸新吉原新書堂」

あたりは浅草寺裏の寺町で今もお寺だらけ。さらに南下したやや隅田川沿いの称福寺には、葛重と同時代の反骨の学者亀田鵬斎の墓があります。松平定信の「寛政の異学の禁」に屈せず、「異学の五鬼」として活躍しました。



復元された葛屋重三郎の墓
そこから西に少し向かうと葛屋重三郎の菩提寺西法寺の大きなビルがあります。エントランスから入ると葛重の碑を案内してくれま

雅望の碑文とともに復元されています。寺の裏はもう山谷堀と日本堤跡の土手通りです。山谷堀は埋められて緑道公園となっています。吉原で使われる大量の紙を再生紙にした紙洗橋跡もあります。土手通りを吉原に向かいます。通りから少し東に入った春慶寺にはいくつかある伝説の遊女・二代目高尾の墓があります。土手通りを見返り柳まで北上しましょう。今はガソリンスタンドの前に立っています。もちろん枯れたり焼けたりの何代目かで、場所も少し変わっています。

ここからが吉原に入る五十間道。途中に葛屋があり、た。大門の場所と大門と耕書堂の解説板があります。大門前を右に行くと、少し先に公園があり、そちらの側が少し高くなって階段の場所もあります。これが吉原を囲んでいたお歯黒どぶの名残です。一見煙びやかな世界も、その実は遊女にとっては刑務所と同じだったのです。大門の通りに戻ると、街並みは江戸時代からのまま。真ん中が仲之町通りのメインストリートで、途中の角で吉原町会会館が期間限

定で「べらぼう」関連のショップ「江戸新吉原耕書堂」となっています。仲之町通りが尽きる右手には吉原神社があり、今は綾瀬はるかさん演じる「九郎助稻荷」も合祀されています。その先左手には吉原弁財天。こちらは関東大震災で多くの遊女が亡くなった池跡で、凄惨な写真が掲げられています。史跡巡りに便利な「ゆかりの地循環バス」ここから頑張れば、浅草寺二天門外の「大河ドラマ館」(台東区民会館)は歩いて二〇分ほどです。ドラマの解説動画や使用した小道具・衣装などが展示され入場料八〇〇円ですが、この入場券で「葛重ゆかりの地循環バス」に乗車でき、今回ご紹介したコースをほぼ巡れます。せっかくだから浅草寺に向かうと、本堂裏広場の浅草寺病院際にたくさんさんの記念物があります。そのうちのひとつが「山東京伝机塚碑」です。葛重と様々な洒落本・滑稽本を出版した山東京伝の顕彰碑で弟の京山が建てました。京伝は裕福な家ながら、幼少時に父からもらった文机を生涯使い続けたそうです。今回紹介したコースは半日でも回れますが、お昼を挟んで一日コースが楽でしょう。ぜひお出かけください。

歴史に残る名城の天守

第31回 備中松山城天守

三浦正幸
広島大学名誉教授
当会特別顧問

高い山城に聳える 二重天守

松山城という名の城は全国に所在しているので、区別するために所在地の国名を冠して備中松山城（岡山県高梁市）という。ほかに伊予松山城（愛媛県）・武蔵松山城（埼玉県）・羽後松山城（山形県）などがある。備中松山城は、中世に築かれた広大な山城だったが、城主の三村氏は天正二年（一五七四）に毛利氏に滅ぼされた。その後、豊臣政権下に入った毛利氏によって文禄・慶長前期（一五九二～一六〇〇）に石垣と天守が新たに築かれて近世城郭に改修されたとされている。

に六〇メートルほど高かった。低くなった小松山でさえも江戸時代に存続した山城としては、比高四四〇メートルの高取城（奈良県）に次いで高い山城であって、近世の三大山城の一つと称えられている。

備中松山城には、険しい山上に二重二階の天守が建つ。二重三階なら丸岡城天守の例があるが、二階建ては天守としては例外的に低層である。高い山の上に立地するので遠くを見張るためには高層建築である必要がないばかりか、山上に吹き荒れる暴風からすれば高層建築は危険でもあった。同じ理由から大名の池田家の鳥取城天守も二重（二階か）であった。この備中松山城に現存する天守は、天和三年（一六八三）頃に五万石の外様大名・水谷勝宗によって再建された二代目天守である。

その前身である初代天守は、正保城絵図（一六四四～四八）

によると渡櫓で平櫓と連結された単純な層塔型の二重（おそろく二階）天守で、現在と同じ場所にあった。慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦後処理によって、松山城は幕府領となり備中代官が置かれ、慶長十年（一六〇五）に備中代官であった小堀政一（遠州）によって修理された。小堀氏は一万二千石に過ぎず、天守建造には禄高が低いので、その創建は関ヶ原の戦い以前の毛利氏支配下だったと考えられる。

なお、層塔型五重天守は慶長九年（一六〇四）頃に藤堂高虎が今治城で創始したと考えられるが、二重天守なら二重櫓を拡大したような単純な構造だったため、関ヶ原以前に存在しているのも不思議ではない。二重天守と平櫓を渡櫓で連結する形式は、天和再建後の二代目天守にも継承されていたが、渡櫓と平櫓は明治以降に朽ちて崩壊し、

層塔型二重天守の 奇跡の造形

現在は天守本体のみが残存している。

現存する二代目天守は、低い

天守台石垣に建つ新式の層塔型の二重二階天守である。層塔型天守なので、外観の重数と内部の階数が同じになる重階一致である。それとは対照的に、旧式の望楼型天守である丸岡城天守は、重階不一致の二重三階であって、明確に構造の違いがある。

しかしながら、一重目の側面や背面に大きな入母屋造の付櫓が接続する複合式天守であって、一見しただけでは望楼型天守に見間違える。天守本体は、一階（一重目）が長辺七間（六尺五寸間）、短辺五間であって、短辺側を正面に向ける。正面に唐破風造の二間幅の大きな出窓、向かって右側面に五間に一間半の入母屋造の付櫓、背面に三間に一間半の入母屋造の付櫓を設け、さらに左側面の天守台下に渡櫓（かつて天守の玄関を兼ねた八の平櫓と結んでいた）の端部が残って付櫓的になった

庇を葺き下ろし、その内部から天守に上る。

大きな入母屋造の付櫓を従えているので、望楼型天守に見間違えるが、付櫓を除いた中心部の七間に五間の本体だけを見れば新式の層塔型天守であることが分かる。単純になりがちな小規模な層塔型二重天守であるが、出窓や付櫓を四方に設けており、その複雑な屋根構成によって優れた造形美を見せ、二重天守の最高傑作である。背面の付櫓の台座石垣は本体の天守台より一・五メートルほど高く、異様である。それは背面側の地盤が天守本体部より高くなっているためで、もし背面付櫓の石垣を高くしないと、付櫓の後方でその壁面が地面に接するほど低位置になってしまう。浜松城天守台でも天守後方の付櫓（八幡台）石垣が本体より高く築かれており、類例である。

その際に中世山城の前方部（小松山）だけが改修され、後方部（大松山）は放置されたらしい。近世城郭化された現在の本丸は比高四二〇メートルもあるが、その背後の大松山はさら

正保城絵図（一六四四～四八）

も継承されていたが、渡櫓と平櫓は明治以降に朽ちて崩壊し、

天守本体の一階内部は、五間に三間を一室の身舎とし、室内に太い大柱を二本立てて二階までの通柱とする。その周囲一間を入側（武者走り）とするが、向かって右側の付櫓との境にあたる側柱を二本省略し、付櫓内へ入側を張り出して部屋とし、

そこに長囲炉裏を切る。この長囲炉裏は、山上の厳しい冬の寒さのために設けられたと言われているが、納得できない。江戸時代の本丸御殿の重臣の詰所にあった長囲炉裏の例からすると、籠城時に城主と重臣らが評定を行う際に、ほかの者に聞かれないように機密事項を長囲炉裏の灰に火箸で書いて伝え、直ちに消すものと考えられる。

この天守の二階は一階の身舎部分がそのまま立ち上がった構造になっており、すなわち一階から入側を省略した規模である。室内には一階からの大柱が立ち上がる。背面側の奥行一間は後方の大柱の背後に当たり、そこを仕切って祭壇としている。祭壇であるので、天守背面側には、もちろん窓が全くない。天守の最上階は四方に向けて窓を開くのが鉄則になっているので、備中松山城天守の二階の背面側に窓がないのは、極めて異例であると言えよう。

ところで、層塔型天守は、構造上、一階の短辺側が最上階の短辺側になる。この天守は短辺側を正面に向けているので、最上重である二重目の短辺側すなわち入母屋破風が正面に向く。

最上重の入母屋破風が正面を向くのは、関ヶ原以前の古い望楼型天守に共通して見られる特徴である。天守は一階の長辺側を正面に向けるため、望楼型天守では、基部の大きな入母屋屋根上で九〇度屋根の向きを変えて最上重の入母屋破風を正面に向ける。しかし、層塔型天守では、屋根の向きを途中で変えられないので、必然的に最上重の入母

屋破風は側面に向く。層塔型天守で、わざわざ一階の短辺側を正面に向けることによって、最上重の入母屋破風を正面に向けたのは、江戸城・名古屋城・徳川再建大坂城など將軍家の巨大天守である。その点からすると、備中松山城天守は小さいながらも將軍家の天守に類する最高格式を備えているのである。

備中松山城天守



長囲炉裏



天守背面の付櫓



2階奥の祭壇

続きは動画をチェック!

日本の建築史を専門とする

広島大学名誉教授／三浦正幸博士の

江戸城の解説動画をこちらからご覧いただけます。



江戸城クイズ⑤ 「江戸城クイズ」第5回です。奮って挑戦してください。



本丸(左側)と二の丸(右側)を隔てる白鳥濠と汐見坂(写真奥の坂道)

1—初代家康の初名は、今川義元から拝領し「元信」だが、幼名は「竹千代」である。それでは、次の徳川將軍のうち、幼名が竹千代でない者は誰か。

(ア) 2代秀忠 (イ) 3代家光 (ウ) 4代家綱 (エ) 10代家治

2—次のうち、大名小路と呼ばれなかったのはどこか。

(ア) 御曲輪内(現丸の内) (イ) 西御丸下(現皇居外苑) (ウ) 新両替町(現銀座) (エ) 愛宕下(現新橋)

3—江戸町奉行は、江戸の町人地の司法・行政・治安維持を一手に担う役職で多忙を極めた。次のうち町奉行に成っていないのは誰か。

(ア) 大岡忠相 (イ) 筒井政憲 (ウ) 根岸鎮衛 (エ) 長谷川平蔵

4—次の4人の徳川將軍と事績の組み合わせが間違っているのはどれか。

(ア) 2代秀忠：芝増上寺造営 (イ) 3代家光：日光東照宮造営 (ウ) 5代綱吉：生類憐みの令発布 (エ) 11代家斉：白牛酪(バター)製造

5—徳川將軍の墓所は、初代家康が日光東照宮、3代家光が日光山輪王寺、他の6人ずつがそれぞれ芝増上寺と上野寛永寺である。それでは、15代慶喜は何処に葬られたか。

(ア) 浅草浅草寺 (イ) 上野寛永寺 (ウ) 芝増上寺 (エ) 谷中霊園

*解答は次号でお知らせします。第4回 解答はP2に掲載しました。出題▶当会理事・塚本一夫(江戸文化歴史検定一級/日本城郭検定一級)

竹下大学 江戸時代の果物 ③

カキ

竹下大学
品種ナビゲーター
当委員会

里古りて 柿の木持たぬ家もなし

松尾芭蕉が元禄七年（一六九四）に、生まれ故郷の伊賀上野で詠んだ句です。この時芭蕉は五〇歳。亡くなる半年前のことでした。近畿から東北にかけての各地を巡り歩いた芭蕉の句だけに、その頃のカキと日本人の関係性がよくわかります。

当時はまだ甘柿の存在はほとんど知られていませんでした。つまり柿の木は渋柿ばかりだったのです。渋柿を加工してつくる干柿の

糖度は六〇パーセントを超えます。甘さはじつに練り羊羹と同程度。カロリー豊富で保存性もよい、優れた兵糧でもありました。次に干柿を食べる際には、砂糖を製造できなかった日本において干柿がどれだけありがたい存在だったか、ちよつと想像してみてください。

このように柿の実が色づく姿は日本の向秋の原風景そのもの。ところがカキは中国原産で、日本に伝わったのは奈良時代とする説が有力です。

三英傑が重用した 堂上蜂屋柿

安土桃山時代から江戸時代にかけて、干柿は庶民の食べ物として親しまれていただけでなく、贈答品としても扱われました。特に注目すべきは「堂上蜂屋（どうじょうはちや）」柿です。この品種は多くの偉人たちに愛され、政治や文化にも大きな影響を与えました。

「堂上蜂屋」は美濃国発祥。縦長で大きく、果肉が緻密で種子が少なくという特徴があります。さらに、水分が少なく、干柿にする通常の干柿の約二倍の重さになるため、非常に贅沢な味わいを持っていました。そしてその品質の高さから、朝廷や歴代の将軍に献上される特別な存在となり、蜂屋柿から堂上蜂屋柿に名前が変わった経緯があります。また、信長、秀吉、家康といった三英傑がこぞって、贈答品や褒美として利用したことでも知られています。

信長は、ポルトガルの宣教師ルイス・フロイスに岐阜城で干柿をふるまい、その美味しさを称賛されました。フロイスは自著「日本史」で「美濃の干しイチジク」と記載していますが、当時イチジク

は日本に存在していませんから、堂上蜂屋柿のまちがいでしょう。また、秀吉は慶長二年（一五九七）に、朝鮮から戻った毛利輝元を伏見城で慰労した際に、まだ五歳の秀頼から直接輝元にわざわざ堂上蜂屋の「のし柿」を贈らせたという史実が残っています。

慶長五年九月一日といえは関ヶ原の合戦の前日です。家康は、大垣城に立てこもった石田三成を討つべく美濃赤坂に向けて行軍していました。その際に、瑞林寺の江國和尚と村民から堂上蜂屋柿を献上され、「早速大がき手に入る吉兆」と大いに喜んだと伝えられています。その後、蜂屋村には年貢免除やその他の特典が与えられ、堂上蜂屋柿の名前はさらに高まりました。堂上蜂屋柿は極端な例ですけれども、各地でつくられた上等な干柿は、戦国時代から江戸時代にかけての日本の文化や歴史を象徴する存在であったと言っ

てよいでしょう。

江戸っ子を 虜にした禅寺丸

川崎で発見された名品種に「禅寺丸」があります。干柿は渋柿からつくられます。「禅寺丸」こそが、

干柿にせよ熟せば生で食べられる初の甘柿なのです。発見地は今も残る王禅寺の山中で、時期は一三世紀頃のようなのです。

禅寺丸人気に火が着いたのは江戸が日本の中心になってからでした。秀忠が天領であった王禅寺で鷹狩りをした際に、老僧とのやりとりで感銘したエピソードが世に知られ、江戸名物のひとつになったのです。江戸時代、禅寺丸は綱吉から吉宗にかけての元禄・享保年間にもっとも多く生産されていたと伝えられています。

渋抜きを画期的な 方法が発明されたのは 江戸中期

渋柿を干柿に加工しないで甘くしたい。ジュシーな甘柿を食べたい。平安時代に中国から脱渋法が伝わって以来、私たちの祖先さまたちは工夫を重ねてきました。ところがその後一〇〇〇年経っても、安定して渋を抜くのは難しく、画期的な方法が待ち望まれていました。空いた酒樽に渋柿を一週間以上密閉してつくる樽柿が発明されたのは、江戸時代中期なのです。（写真：美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会）



堂上蜂屋柿



堂上蜂屋柿

江戸城天守を再建する会 入会案内



367年前に焼失した江戸城天守を、東京のシンボルとして甦らせたい。そんな思いを共有する人たちが集うNPO法人です。2006年NPO法人設立。当会主催の各種イベントや講演会のご案内をするほか、会報「かわら版」(年4回)をお届けします。

会 長：太田資曉 (太田道灌公18代子孫)
 理事長：島田昌幸 (テレビ東京顧問)
 年会費：正会員 (個人)10,000円
 正会員 (法人)100,000円
 賛助会員 (個人)3,000円
 賛助会員 (法人)30,000円

入会手続

- 1 ホームページ(クレジットカード)
 - 2 ゆうちょ銀行・払込取扱票
- ▶詳しくは当会事務局へお問合せください。

市毛卓哉 (茨城県)
 江戸城天守再建実現に向けてご健闘をお祈り申し上げます。日本のシンボルを是非世界へ。

◆投稿、提案、
 当会イベント情報などを
 随時掲載します。



「江戸城再建ウォーカーズ」の ダウロードお忘れなく

庄司隆弘 (東京都)

私は「江戸城再建ウォーカーズ」の開発元であるジオテクノロジーズ(株)の社員です。社内で開発の事実を知り、興味が湧きマンガを3巻購入し、江戸城跡地を訪問し、そこに江戸城を実現したくて入会を決めました。今NPOが最も欲しているのは、次の何になりますでしょうか？
 資金・気運・人手？

(※事務局から一言：「江戸城再建ウォーカーズ」は健康を意識しながら江戸城再建に貢献できるアプリです。会員の方はぜひダウロードをよろしく願います！)

江戸城天守再建に
 賛同します。
 各種団体に働きかけましょう

千葉邦男 (福島県)
 首都東京に日本の象徴たる城の天守閣をとの主旨に心より賛同しました。世界に誇れる観光立国ニッポンの真の象徴、江戸城の天守閣を日本

人としてもぜひ目にしたいです。世界の人々が日本を目指して来日すると思いますので、より多くの人達にこの活動を知ってもらう為にも、各種媒体を駆使する事が肝要と考えます。

江戸城周辺を歴史地区として
 発展させていきたいですね

宮内正純 (神奈川県)

東京の町にシンボルが欲しいという部分は以前から自分でも思っていたので賛同しました。今後の期待としては、江戸城だけでなく江戸城周辺を含めた歴史地区として東京の町を観光スポットとして発展させていくという事も活動として願いたいという事です。

事務局 からの お知らせ

「請願署名」に
 ご協力ください



一万筆の請願署名を今年度の目標としていきます。

会員の皆様には、ご家族、ご友人の皆様にも、この請願署名へのご協力をお願いしていただきます。

新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されています。本年も新入会員200名を目標としています。ご協力ください。

住所変更届けのお願い

ご住所・電話番号などが変更した

場合、ファクスや電話で早めにご連絡ください。会からのお知らせが届かなかつたりします。

メールアドレス登録のお願い。

メールアドレスをお持ちの方は事務局にメールをお送りください。イベント等の情報をお届けします。

会費納入のお願い

それぞれの会員の皆様のご入会前月に次年度の「会費納入のお願い」をお送りしています。ご協力のほどお願い申し上げます。

年会費納入法

◆年会費カード決済

会費納入や寄付金の決済は、クレジットカードにも対応しています。カード決済ご希望の方は、当会ホームページからどうぞ。



自動継続をご希望の方は、HPの「カードによる継続会費のお支払い」からお手続きください。

◆年会費自動払込(ゆうちょ銀行)

当会では、ゆうちょ銀行口座からの年会費自動払込を行っています。ぜひご利用ください。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

認定NPO法人の当会への 寄付金は

税の控除が受けられます。
 優遇措置を利用して
 ご寄付にご協力ください。

新規入会の皆様、 歓迎します

●新規入会 令和六年十二月一日～
 令和七年二月二十八日
 入会順 三十七名

※「かわら版」への投稿、提案、お問合せは、事務局宛に郵便・FAXまたはメールにてお願いします。



【事務局】

〒101-0065
 東京都千代田区西神田
 2-5-7-505
 E-mail=info@npo-edojo.org
 事務局長 / 浅井純一、山本りか

ご寄付くださった皆様、
 ご協力ありがとうございました

●寄付者 令和六年十二月一日～令和七年二月二十八日
 五十音順 十七名(その他クラウドファンディング三十名)